

資料編

資料編は、基本計画検討委員会の議事記録、先進地視察の報告のほか、基本計画策定を進める上で本編の補足として、施設立地のイメージ図等、参考になるとと思われる事項を掲載しました。

目次

1.フィールド活動の方向性と新名護博物館の機能	
(1) フィールド活動と地域連携	94
(2) 地区ごとの活動連携事業	96
2.博物館及び関連施設の収蔵資料の概要	
(1) 自然史資料	102
(2) 歴史民俗資料	103
(3) 美術工芸資料	104
(4) 市内社会教育機関所蔵資料	104
3.名護博物館の活動	
(1) 教育普及・フィールド活動	105
(2) 企画展示・イベント活動	106
(3) 出版	107
(4) 友の会活動	111
(5) 博物館友の会との連携事業	112
4.関連施設調査の記録	
(1) 第1回先進地視察（九州・中国地方）	116
(2) 第2回先進地視察（近畿地方）	147
5.新名護博物館基本計画策定委員会の記録	
(1) 委員会名簿	169
(2) 各委員会と検討内容	170
(3) 検討委員会議事録（要旨）	171
(4) 検討委員へのヒアリング	177
6.施設立地と展示計画資料	
(1) 建設候補地の地形的特徴と利用区分	185
(2) 施設配置のイメージ	186
(3) 施設建築案A	187
(4) 施設建築案B	193

1. フィールド活動の方向性と新名護博物館の機能

(1) フィールド活動と地域連携

●新名護博物館を特徴づける展示：名護・やんばるの暮らしと自然

1 常設・企画展示エリア

名護・やんばるの海・山・川を一体的にとらえ、生物生態系のつながり、エネルギー循環の仕組みを理解し、人もその一部であることを再確認・再発見する

- 生態系つながり展示
- 自然の利用暮らし展示
- 集落の構造と変遷展示 等

2 暮らし体験エリア (屋外再現展示)

民家・高倉・アタイなどの集落構成要素をもとにやんばるのムラの暮らしを再現する

- 茅葺民家（近世の暮らし）
- 赤瓦民家（近代の暮らし）
- セメント瓦民家（戦後の暮らし）等

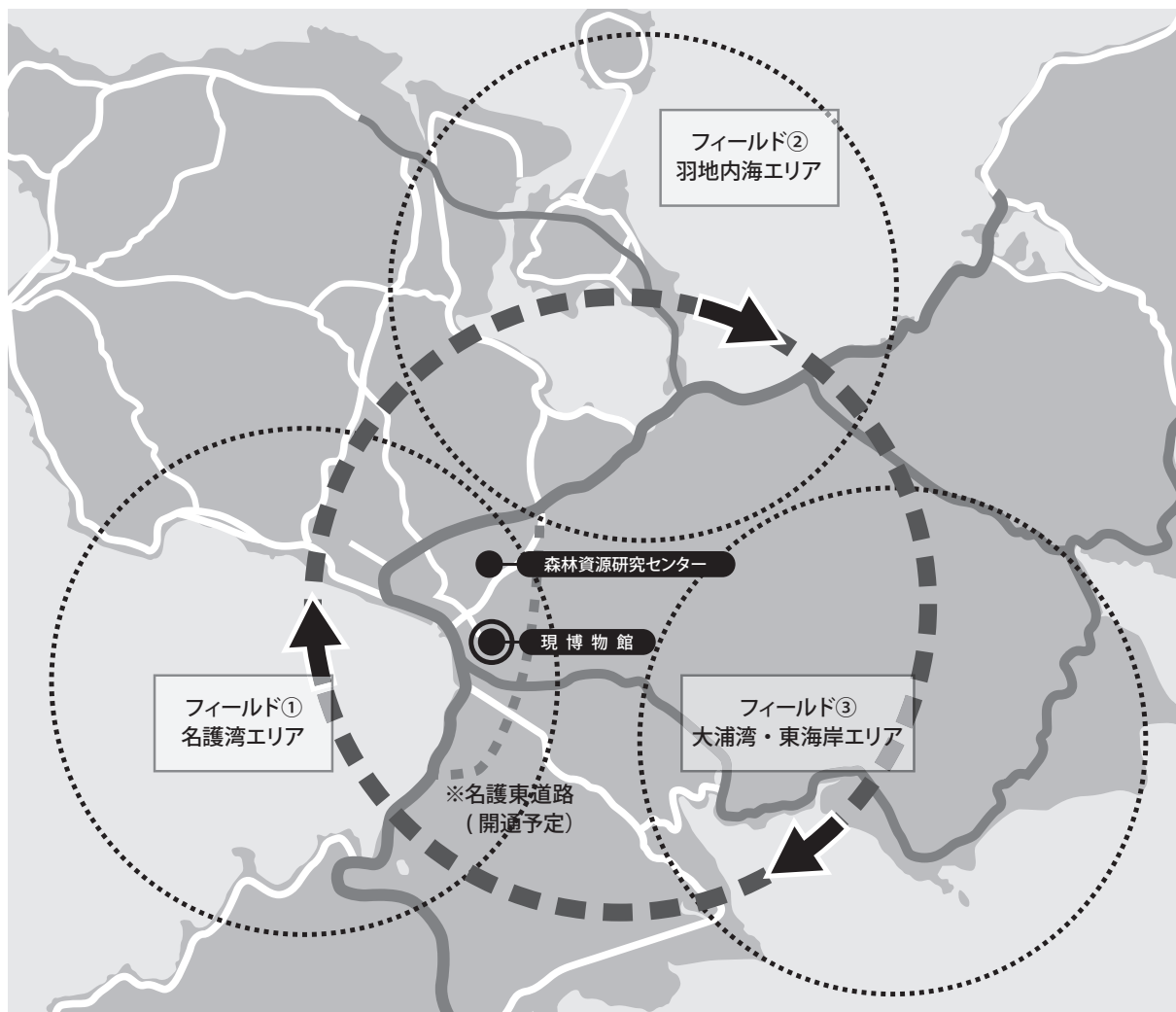
3 栽培・飼育エリア (屋外実習展示)

やんばる型複合農業経営を研究実践する実験農園、自然とひとの新しいつながりを生む新技術や考え方を実践する

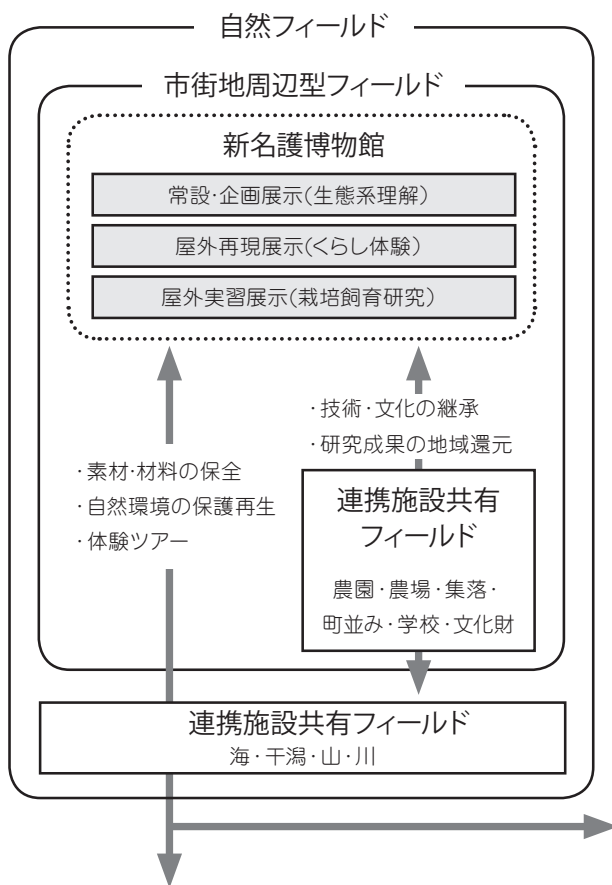
- 複合型農業ミニ農園
- 在来種の再生
- やんばるの新しいブランドづくり等

●フィールドと博物館活動

名護・羽地・大浦湾という3つの異なる環境をベースにフィールドを設定し、博物館を拠点にそれぞれの特徴（個性）を際立たせながら連携した活動を展開することで名護・やんばるの多面的な魅力をアピールする



1. フィールド活動の方向性と新名護博物館の機能



②羽地内海エリア：羽地、屋我地地区

<展開事例>

- 羽地内海の景観、生態系、海洋生物等の情報を中心に集積・研究・公開する拠点として位置づける
- 羽地内海を中心にしたシエコツーリズムの拠点として、マングローブ林などの干潟観察・野鳥観察・シーカヤック体験・漁業体験などを中心に展開
- 田植え・稲刈り・キビ刈り・製塩などの体験講座を実践



①名護湾エリア：名護、屋部地区

<展開事例>

- 市街地住民が身近な自然と触れ合う体験の場として市民菜園、ピオトープなどを展開
- 在来種の保存と活用を目指す実験農場などを実践し、北部農林高校・ネオパークなどと共同で展開
- 集落の成り立ちと変遷、農業史などを実物展示や再現展示などの手法で実践



③大浦湾・東海岸エリア：久志地区

<展開事例>

- 大浦湾と東海岸の豊かな生物相に関する情報を集積・研究・公開する。
- 自然と共生してきた生活文化を、実践的に学ぶためのモノづくり講座を展開。
- 森林資源を利用したモノづくりの情報・技術を今日の産業に応用することを目的に産学官連携の交流事業を展開。



1. フィールド活動の方向性と新名護博物館の機能

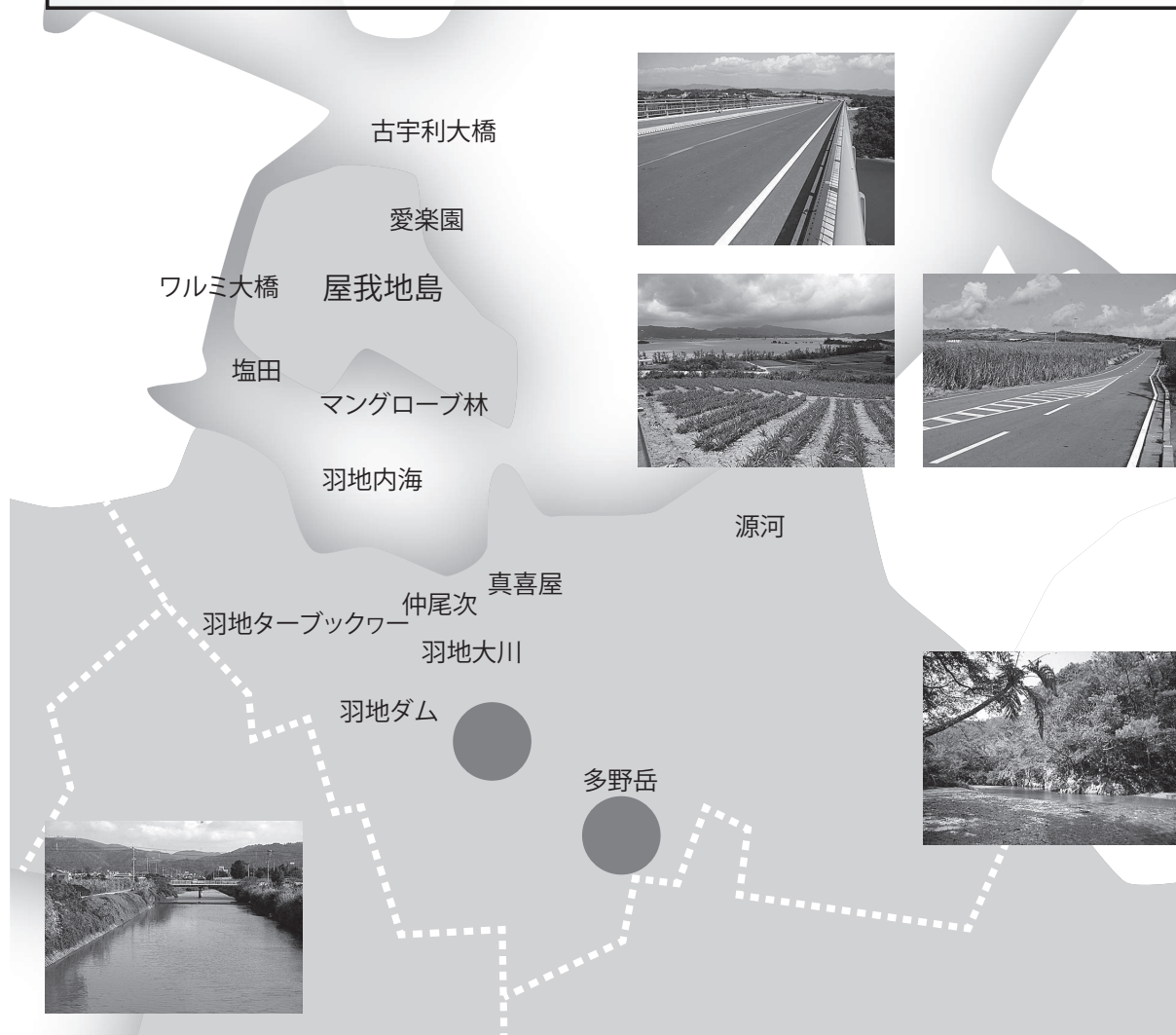
(2) 地区ごとの活動連携事業 <羽地、屋我地地区の地域資源>

羽地地区の特徴

古琉球の時代、羽地内海一帯は親川グスクを拠点にした羽地按司が支配した。近世期には、羽地内海にそそぐ大川で、蔡温が指揮して大改修工事が行われた。羽地一帯は、羽地ターブックワー（田園）に代表される稲作地帯として知られ、仲尾次や真喜屋方面にも水田が広がっていた。明治後半からは海外移民や日本本土への出稼ぎを多く出し、県内有数の移民・出稼ぎ地域であった。

屋我地地区の特徴

屋我地島の南西側は今帰仁村湧川に向かい合い、北側は古宇利島、東側は奥武島とそれぞれ結ばれる。名護市でもっとも古い墨屋原遺跡や大堂原貝塚、県指定史跡の運天原サバヤ貝塚などが点在する。羽地内海に面する南東部は、マングローブ林が広がる干潟になっていて、戦後まで製塩が行われていた。今帰仁村との間のワルミ海峡に、近年架橋がなされ、直接交流も可能となった。



1. フィールド活動の方向性と新名護博物館の機能

羽地内海の自然を背景に、充実した自然体験活動を実践する

<活動のポイント>

- 羽地内海の豊かな自然と、周辺地域の歴史・くらしを背景にしながら、自然体験活動を中心にした博物館活動を展開
- 羽地内海を周遊する観光コース途上に立地することを利用し、地域外の来館者と周辺地域との積極的な交流事業を展開

名護市の計画にリンクするミュージアム事業（案）

- クジラ・イルカ類や羽地内海に生息する海生生物の情報集積・研究を進め、個性的な施設として活動する。

<事業例>

羽地内海をフィールドに調査・研究・公開を実践し、内外の研究者・学生などのための情報交流拠点として展開する。

<連携>

大学・研究所・研究者など

- 羽地内海を中心としたエコツーリズムなどの活動を勧めながら、自然環境保全活動を推進する拠点として機能。羽地内海の豊かな環境・生態系を利活用しながら保全する施策を実践的に展開する。

<事業例>

屋我地島固有の文化資源を地域住民と共同で発掘し、ツーリズムに活かす。黒糖・天然塩のような地域資源に基づいたブランド品開発をすすめる。

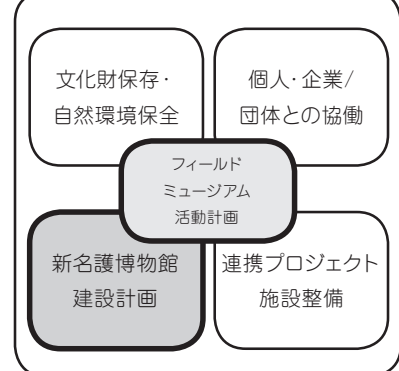
<連携>

公民館、婦人会、商工会・観光協会、民間企業など

- 名護・やんばるにおける近現代の海上交通に関する情報集積・研究の拠点として位置づけて展開する。

- 塩田や水田に代表される近現代のモノづくりに関する情報を集積・研究する拠点として展開する。

フィールドミュージアムの基本スキーム



<外部連携のイメージ>

- 市民団体などと連携したエコツーリズムのプログラム開発・実践
- 小中学校、地域の団体・個人等と連携した体験学習プログラムの開発・実施
- 公民館等が行う地域活性化事業などへの協力
- 民間企業・団体の地域ブランド開発への協力



実験農場



稲作体験



自然体験



塩作り体験

1. フィールド活動の方向性と新名護博物館の機能

(2) 地区ごとの活動連携事業 <名護・屋部地区の地域資源>

名護地区の特徴

集落は名護グスクから移動し、現在の町の原形を形作ったとされる。現在の名護博物館は、近世期にあった間切番所の跡地に建ち、フクギの巨木もそのころ植栽された。近世沖縄を代表的する人物、名護親方・程順則は1728年、名護間切総地頭職を授けられた。近代には、山原の行政・運輸交通・商業機能・教育が名護マチに集中立地するようになり、今日に続いている。

屋部地区の特徴

名護岳から流れる東屋部川と、嘉津宇岳に発する西屋部川が、河口付近で合流して名護湾に注ぐ。東側の宇茂佐古島遺跡では、古琉球期の畑跡や高麗系瓦が多数出土して注目された。土地の多くは山林で、製茶、藍の製造などがおこなわれていた。山原船が往き来する屋部川の周辺の低地には、水田が広がっていた。明治後期の伝統的な建築様式を今に残す久護家は、集落の名前になったほどの豪農であった。屋敷を取り囲む防護林が、今も美しい集落景観を形作っている。



1. フィールド活動の方向性と新名護博物館の機能

身近な自然を利用した体験活動・やんばる全域のガイダンス

<活動のポイント>

- 中心市街地から近距離の身近な自然のなかに設置される博物館で、実践的な活動に力点を置いて展開する。
- 市域外からの来訪者のために、やんばる全域をガイダンスする情報センターとして展開する。

<名護市総合計画とリンクするミュージアム事業(案)>

●市街地活性化事業とのリンク

市営市場を中心とする市街地活性化の動きと連動して、市街地を周遊するツーリズムを展開

<事業例>

地域めぐりなどとタイアップした、商店街による特典や地域ブランド品プレゼント

<連携>

商工会・観光協会などの団体、オリオンビール・津嘉山酒造などの企業、さくら祭りなどへの参加

●学校の体験学習・生涯学習などとのリンク

<事業例>

自然観覧会・エコツーリズムや田植え・稲刈り・キビ刈り・野菜づくりなどの農業体験。在来家畜との触れ合い体験。食品加工体験など。竹・稲などを利用したモノづくり体験活動

<連携>

北部農林高校・名桜大学・小中高校・専門学校・福祉施設など

●観光事業・地場産業・人材育成事業などとのリンク

博物館が集積・研究してきた地域情報を利活用し、在来文化資源の今日的価値を商店街・企業・各種団体などと連携しながら追求・開発する。観光やモノづくり、人材育成などに実践を通して反映させる。

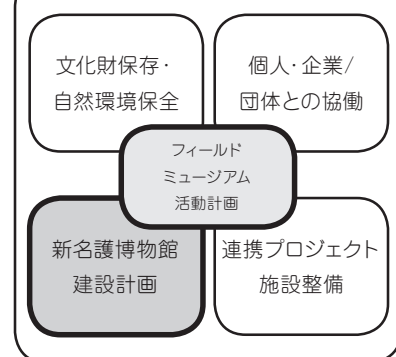
<事業例>

リュウキュウアユ・ピトゥ・イネ・沖縄ソバなどの食文化研究で蓄積されたデータを商品開発や観光資源として利用する。生活文化に基づく新たな商品を開発し、企画開発やモノづくりを通して人材の育成を進める。

<連携>

ホテル・飲食・土産品などに関わる事業所、大学・研究機関、専門学校など

フィールドミュージアムの基本スキーム



<外部連携のイメージ>

- 市民団体・農林学校・大学・研究機関との共同研究
- 小中学校、地域の団体・個人等と連携した体験学習プログラム開発と実施
- 公民館・民間団体等と連携した学習プログラム開発と実践
- 民間企業・団体の地域ブランド開発、特産品開発などへの協力

1. フィールド活動の方向性と新名護博物館の機能

(2) 地区ごとの活動連携事業 <久志地区の地域資源>

久志地区の特徴

背後に山が連なる地形のため、交通が不便だった集落が多く、かつては大浦湾・太平洋岸沿いの交流・交易の方が主流だった。戦前までの産業は山仕事で、大浦川や汀間川などの河口から切り出された薪炭が、山原船で首里・那覇などに運ばれた。川沿いの土地では稲作中心の農業が行われていたが、1960年代からサトウキビ・パイナップルに切り替えられた。伝統行事・芸能も色濃く残り、「久志の若按司」や「人形踊り」「フェーヌシマ」などが知られる。



1. フィールド活動の方向性と新名護博物館の機能

やんばる本来の自然の姿と、そこで共生してきた生活文化を学ぶ

<活動のポイント>

- 名護市の東海岸に広がる、豊かな自然をフィールドにした体験活動を中心に展開し、身近に迫る海と山の魅力や、自然と共生してきた生活文化を紹介する。

名護市の計画にリンクするミュージアム事業（案）

- 大浦湾とやんばるの東海岸の地質・生物種等の情報を集積・研究・公開し、ジュゴン・ウミガメ等の海生生物やリュウキュウイノシシなどの豊富で個性的な情報を基に展開する。

<事業例>

やんばる東海岸をフィールドに調査・研究・公開を実践し、内外の研究者・学生などのための情報交流拠点として展開する。

<連携>

大学・研究所・研究者など。

- 山のくらしを主体とする生活文化を学ぶ、宿泊施設もそなえたグリーンツーリズムの構想と連携した施設として展開する。

<事業例>

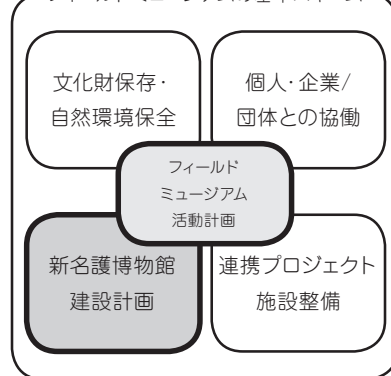
市民・観光客などを対象にした自然体験教室・林間学校・モノづくり講座などを展開する。

<連携>

公民館・老人福祉関連施設など

- 在来生物資源の情報集積と利活用を推進する。

フィールドミュージアムの基本スキーム



<外部連携のイメージ>

- 市民団体などと連携したエコツーリズムやグリーンツーリズムのプログラム開発・実践
- 小中学校、地域の団体・個人等と連携した体験学習プログラムの開発・実施
- 公民館等が行う地域活性化事業などへの協力
- 民間企業・団体の地域ブランド開発への協力



農業体験



生活文化体験



くらしの技の継承

2. 博物館及び関連施設の収蔵資料の概要

(1) 自然史資料

※平成22年3月現在

登録資料(第2収蔵庫・展示室)8,529点

植物:994点

昆虫:チョウ目 1,726点/トンボ目 1,851点/バッタ目 1,535点/

コウチュウ目 1,931点/ハチ目 95点

両生・爬虫類:35点

鳥類:224点 哺乳類:陸生哺乳類 91点/海生哺乳類 47点

未登録・未整理資料

■第2収蔵庫・展示室

地質資料:岩石、鉱石、化石等 コンテナ約30箱分/土質資料 500点以上

植物:未確認

昆虫:カメムシ目(セミなど)100点以上/2F展示室の標本/水生昆虫等の液浸標本/その他
昆虫以外の無脊椎動物

カニ・エビ、クモなど(主に液浸)50点以上/鯨類・家畜等の寄生虫(主に液浸)数点/

貝類:(乾燥)数十~数百点

魚類:10点以上(ほぼ液浸)

両生・爬虫類:50点以上(ほぼ液浸)

鳥類:ハシブトガラスの下顎骨 コンテナ約10箱分/その他

哺乳類:リュウキュウイノシシの下顎骨 約200点/その他

鳥類、昆虫などの写真

■冷凍庫(一時保存)

主に爬虫類、鳥類、哺乳類 約400点

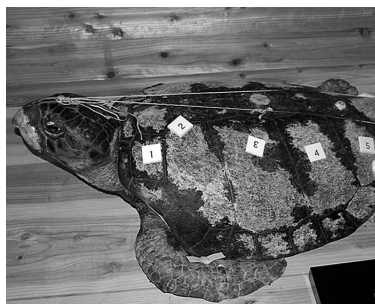
■資料確認室

未確認

■その他

パヤオのサンゴ生物群集 約500点/鯨骨(埋砂、除肉中)数点/

剥製・骨格標本依頼中資料 数点



2. 博物館及び関連施設の収蔵資料の概要

(2) 歴史民俗資料

※平成22年3月現在

登録資料 6,733 点

大分類	中分類	点数	内 容
1	衣食住	2,671	
	①着用具	504	着物ほか衣類、笠・みの・わらじ、帽子・はきもの、化粧・裁縫（ミシン含む）・洗たく用具
	②食の用具、資料	1,755	貯蔵・調理・飲食用具（石臼、重箱含む）、喫煙具、泡盛ほか
	③居住用具	410	収納具、照明具、家屋・暖房用具ほか（家具、石だらい、水甕、時計、ほうき含む）
	未登録	2	
2	生産・生業	1,528	
	①農業・畜産用具	604	農具（ニクブク、ソーキ、木臼など）、畜産用具
	②山樵・狩猟用具	70	斧、なた、のこ等
	③漁具	310	捕鯨用具ほか
	④製糸・染織用具、資料	182	布・糸、高機・地機・むしろ機それらの部品、道具以外の関係史料、養蚕道具
	⑤手工・諸職の用具	362	酒造・製塩・鍛冶・製菓資料、大工道具ほか
3	交通・運輸・通信	262	
	①運搬用具と関連資料	239	鞍、桶、もっこ、ティール（背負いかご）、滑車、風呂敷、パスポートほか
	②通信関係資料	21	ホラ貝の報知具、電話、ラジオ、テレビ、サイレン等
	未登録	2	
4	交易・商業	951	
	①交易用具	179	升、はかり、わら算等
	②金融資料	268	貨幣、銭箱、預金通帳
	③広告用具	245	瓶、缶、看板・ポスター、たばこ包装紙
	④商売道具	259	接客用具（厚養館ホテル資料）
5	社会生活	175	証文箱、ハル石、役所関係、郵便ポスト、借用証
6	信仰	167	仏壇、仏具（香炉、花瓶、茶碗等）、シビランカ、シーサー、石敢当
7	民俗知識・学校関係・衛生	134	
	①民俗知識関係資料	25	風水尺
	②学校・教育関係資料	82	勉強机、学習用具、給食用食器
	③衛生用具	27	担架、ネズミとりほか
8	民俗芸能・娯楽・スポーツ	265	
	①民俗芸能資料	90	村踊り衣装、伝統楽器
	②遊び・娯楽・スポーツ資料	175	蓄音機、道具、国体資料、楽器、飾り物
9	人生儀礼	277	
	①装具	263	厨子瓶、骨壺、龕、副葬品
	②その他	14	生年祝いの資料ほか
10	年中行事	3	ハーリーの櫓など
11	戦争および米軍関係	178	銃剣、軍服、米軍払い下げ、避難民の墓標ほか
12	文書類	80	地図、古文書、証明書
13	用途不明資料	42	名称記入もれ等

合計 6,733

未登録資料(資料番号あり) 297 点以上

2. 博物館及び関連施設の収蔵資料の概要

(3) 美術工芸資料

※平成22年3月現在

登録資料 138 点
宮城与徳、山入端一博 等 絵画資料
名護・やんばるゆかりの作家

分類	
藍染	1
絵画	61
絵画（あけみお展）	19
絵幕	1
型絵染	1
ガラス工芸	1
書	10
写真	3
染め絵	1
垂れ幕	1
彫刻	2
陶器	33
陶板	1
不明	3
合計	138

(4) 市内社会教育機関所蔵資料

1 文化財係

・市内遺跡資料 ・文化財資料 ・村踊り等の映像資料
・その他

2 市史編さん係

・合併前各町村資料 ・名護市行政資料 ・市内芸能資料(デジタル化)
・写真資料(デジタル化、データベース化) ・その他(出稼ぎと移民など)

3 市民会館

・フォトシンポジウム関連資料

4 図書館

・徳田球一資料(目録化) ・平良考七写真資料 ・島袋全幸資料 ・その他

5 名護市広報

・写真資料(未整理)

6 その他部署の行政資料

・未整理

3. 名護博物館の活動

(1) 教育普及・フィールド活動



塩づくり体験

名護博物館では、「ぶりでい子ども博物館」や各種のワークショップ・講座などを開催してきた。これからも市民や学校などとの連携を深めながら、地域に密着した活動を展開する。



マングローブ観察体験



津嘉山酒造所見学



集落散策



集落調査



自然散策

3. 名護博物館の活動

(2) 企画展示・イベント活動



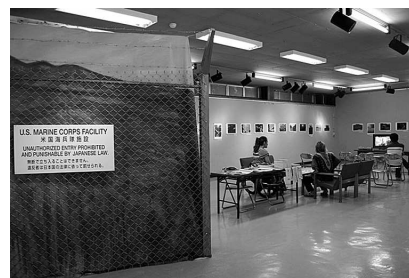
みんなで学ぼう展示会



鳥の巣展



絵画展



写真展



体験学習



美術展

3. 名護博物館の活動

(3) 出版

①『あじまあ』(名護博物館紀要)

号	論文名	版・ページ数	刊行年
1	・比嘉道子「ソテツを食べる ソテツを使った食べ物づくりの再現を通して」 ・玉城かおり「屋我地島饅平名の年中行事」 ・島袋正敏「山羊の飼養と食の形態 山原・与論・沖永良部の場合」 ・安里進、上原政昌、島袋正敏「第1次清原貝塚発掘調査略報」 ・新里幸昭「大宜味村喜如嘉方言の音韻の研究」・比嘉寿「嘉陽の植物」	B5 79p	昭和60年(1985)
2	・渡具知伸、比嘉久「山のくらしと地名 ―羽地大川流域について」 ・新里幸昭「大宜味村喜如嘉の屋号 ―その成り立ちと特徴」 ・比嘉親平「名護間切番所敷地の変遷」 ・仲田ひとみ「瀬底島シークの年中行事」 ・比嘉道子「沖縄の紡績女工(一) ―その実像を求めて」 ・原園子「沖縄における綿栽培と蒲団づくり ―とくに屋我地島を中心として」 ・友寄隆史「名護・やんばるにおける菓子製造と行商 ―昭和20年代を中心に」 ・新里孝和「竹富島の植民俗資料」 ・佐藤文保「私たちの知る沖縄島のチョウとトンボ ―特に名護市幸地又を中心に」 ・中本正泰「マッコウクジラの埋設方法とその経過」	B5 230p	昭和61年(1986)
3	・仲田ひとみ「瀬底島の葬制」 ・比嘉道子、比嘉淳子「屋我地島の製塩業 ―我部・運天原の例―」 ・友寄隆史「伝統的琉球菓子 ―その種類と製造、利用について―」 ・安里進、上原政昌、家田淳一「播鉢編年からみた近世琉球菓業の展開」 ・新里幸昭「大宜味村喜如嘉方言の音韻の研究」 ・仲原弘哲「運天 ―歴史の視点から―」 ・新里孝和「竹富島、有田家の石庭と語る」	B5 204p	昭和62年(1987)
4	・高原健二「宇茂佐及び屋部川下流域の鳥相」 ・新里孝和、宮城繁夫「カンヒザクラの開花(予報)」 ・宮里 尚「名護の捕鯨 ―名護における捕鯨の起こりとその変遷―」 ・仲原弘哲「今帰仁(北山)の歴史」 ・新里幸昭「沖縄本島方言形容詞の言い切りの形 ―その成り立ちと分布について―」 ・仲田ひとみ「安和の年中祭祀」 ・比嘉淳子「安和牛ウガンの行事観察記録」 ・比嘉道子「アダン葉帽子編み」	B5 253p	昭和63年(1988)
5	・新里孝和、新本光孝、山盛 直 「熱帯・亜熱帯性資源植物の収集・保存に関する 研究(3)(資料)―西表島の原野の資源植物―」 ・幸地 ―「国頭・与論方言における一音節動詞のアクセント (試論)」 ・高原健二「沖縄島におけるアマミヤマシギ Scolopax Miraの夏季と冬季の分布について」 ・仲田ひとみ「嘉陽区古墓2墓(通称ハーバタ・アジバカ)調査記録」	B5 45p	平成元年(1989)
6	・新里幸昭「大宜味村田嘉里の屋号 ―その成り立ちと特徴―」 ・玉城政美「オモロの歌形」 ・高田 勝「沖縄における在来鶏について」	B5 50p	平成4年(1992)
7	・伊波寛一「ヤンバルの食文化」 ・比嘉ひとみ「名護市数久田区民の戦争体験記録」 ・喜屋武家門中・名護博物館「今帰仁村宇崎山喜屋武家門中の墓調査記録(1993年)」	B5 90p	平成8年(1996)
8	・家田淳一「名護市稲嶺のしゃこがい科製沈子追捕」 ・宮城弘樹「貝塚時代後期土器の研究(1) ―部瀬名貝塚出土表裏面有文土器資料に着目して―」 ・佐藤克彦「琉球切手が語る沖縄の戦後史」	B5 83p	平成10年(1998)
9	・琉球大学農学部亜熱帯動物学教室(嘉陽稔、川島由次、小倉剛、真喜志修)「マッコウクジラの骨計測」 ・山本英康「リュウキュウイノシシの履歴書1 ―下顎骨の形態的考察―」 ・上田和幸「琉球犬の実態と狩猟文化」 ・比嘉ひとみ、友寄凡子「「済井出の鑫」修復記録」 ・山城 正「ガンの寸法と唐尺との関係 ―済井出のガンの保存修理作業から―」	B5 116p	平成11年(1999)

3. 名護博物館の活動

号	論文名	版・ページ数	刊行年
10	・比嘉道子「神奈川県横浜市・川崎市の名護人・羽地人」 ・宮城 陽「名護博物館の美術工芸資料について」 ・比嘉武則「琉球真景」再び」 ・山本英康「沖縄近海鯨類の人との関わりと変遷」	B5 104p	平成14年(2002)
11	・宇仁義和「沖縄県のジュゴン Dugong dugon 捕獲統計」 ・比嘉道子「移民活動と関わった国頭出身者」 ・宮城陽「収蔵絵画展part2「宮城与徳・古波蔵誠仁・山入端一博」展より ギャラリートーク 郷里の画家 三人の作品が語るもの」 ・中鉢良護「仲松彌秀論 ―沖縄民俗学の「人と時代」―(上)」 ・嵩原建二、山本英康「一館所蔵資料紹介― 所蔵資料中の興味深い鳥類標本について」	B5 110p	平成15年(2003)
12	・中鉢良護「仲松彌秀論 ―沖縄民俗学の「人と時代」―(下)」 ・比嘉道子「関西の沖縄人―大阪市大正区沖縄県人会を中心に」	B5 94p	平成16年(2004)
13	・岸本利枝「大堂原貝塚出土の曾畑式土器様式について」 ・名護市教育委員会文化課・名護博物館「名護市東江 屋部家(屋部仲)の墓調査記録(2005年)」 ・比嘉武則「先島(宮古・八重山)に於けるセメント瓦の一考察」	B5 95p	平成18年(2006)
14	・比嘉久「山本川恒の民話(1)―伝承話の紹介―」 ・名護市教育委員会文化課/編集平貴「名護市のハル石―資料の紹介―」 ・比嘉武則「―現代の卓越した文人・政治家―比嘉宇太郎の世界―」	B5 92p	平成19年(2007)

② 企画展図録

書 名	版・ページ数	刊行年
名護やんばるのへび	B5・17p	昭和60年(1985)
名護やんばるのシダ	B5・22p	昭和61年(1986)
名護やんばるの農具	B5・34P	平成元年(1989)
名護やんばるの野鳥	B5・30p	平成2年(1990)
塩 一屋我地マースを見直す―	B5・80p	平成3年(1991)
自然の中で生きる虫たち	B5・67p	平成4年(1992)
ビトゥと名護人 ―沖縄県名護のイルカ漁―	B5・154p	平成6年(1994)
祝い・祀り・墓	B5・46p	平成6年(1994)
極限の人々 名護やんばるの戦争	A5・103p	平成7年(1995)
沖縄の古窯 古我知焼	A4・62p	平成8年(1996)
名護やんばるの酒	B5・54p	平成10年(1998)
飛び立つ生命 ―まちにチョウを増やそう―	A5・32p	平成11年(1999)
屋我地 ～その歴史と自然～	A4・63p	平成12年(2000)
骨格展 人の体内に潜む変化	A5・30p	平成13年(2001)
沖縄のセメント瓦 名護からの発信	B5・49p	平成14年(2002)
沖縄の度量衡 はかりを通した人々の暮らし	A4・68p	平成15年(2003)
名護博物館20年の歩み歴史展	A4・83p	平成16年(2004)
名護浦の漁撈展	A4・43p	平成17年(2005)
名護・やんばるの樟製造	A4・35p	平成18年(2006)
比嘉宇太郎所蔵資料展	A4・31p	平成20年(2008)
名護親方程順則展	A4・9p	平成20年(2008)
掘り出された歴史 屋部・宇茂佐古島展	A4・13p	平成20年(2008)
幸地川の生きものたち ～名護湾にそそぐ川①～	A4・15p	平成22年(2010)
鳥の巣展 ～鳥に学ぶ命のつながり～	A5・26p	平成23年(2011)

3. 名護博物館の活動

③ 特別展図録

書 名	版・ページ数	刊行年
この動物は何だろう	B5・42p	平成6年(1994)
アイヌ文様のこころ ―チカップ美恵子作品展―	B5・27p	平成9年(1997)

④ 調査報告書

書 名	版・ページ数	刊行年
名護市墓分布形態調査報告書1 久志地区の墓	B5・168p	平成2年(1990)
名護市墓分布形態調査報告書2 屋部地区の墓	B5・131p	平成3年(1991)
名護市墓分布形態調査報告書3 屋我地地区の墓	B5・127p	平成4年(1992)
名護市墓分布形態調査報告書4 羽地地区の墓	B5・212p	平成5年(1993)
名護市墓分布形態調査報告書5 名護地区の墓	B5・247p	平成6年(1994)

⑤ 高校生我がまちを描く展画集

書 名	版・ページ数	刊行年
高校生我がまちを描く 1	22×24cm・34p	昭和63年(1988)
高校生我がまちを描く 2	22×24cm・45p	平成元年(1989)
高校生我がまちを描く 3	22×24cm・46p	平成2年(1990)
高校生我がまちを描く 4	22×24cm・46p	平成3年(1991)
高校生我がまちを描く 5	22×24cm・46p	平成4年(1992)
高校生我がまちを描く 6	22×24cm・47p	平成5年(1993)
高校生我がまちを描く 7	22×24cm・45p	平成6年(1994)
高校生我がまちを描く 8	22×24cm・45p	平成7年(1995)
高校生我がまちを描く 9	22×24cm・44p	平成8年(1996)
高校生我がまちを描く 10	22×24cm・57p	平成9年(1997)
高校生我がまちを描く 11	22×24cm・48p	平成10年(1998)
高校生我がまちを描く 12	22×24cm・57p	平成11年(1999)
高校生我がまちを描く 13	22×24cm・55p	平成12年(2000)
高校生我がまちを描く 14	22×24cm・54p	平成13年(2001)
高校生我がまちを描く 15	22×24cm・64p	平成14年(2002)

⑥ 資料目録

書 名	版・ページ数	刊行年
名護博物館の染織資料目録	B5・26p	平成7年(1995)
幣寄贈目録 ―比嘉新古コレクション―	A4・213p	平成8年(1996)
名護博物館所蔵資料目録 歴史民俗資料(1)	A4・154p	平成10年(1998)
名護博物館所蔵資料目録 自然史資料(2)	A4・64p	平成12年(2000)

3. 名護博物館の活動

⑦ ぶりでい子ども博物館まとめ集

書 名	版・ページ数	刊行年
ぶりでい子ども博物館 1	B5・103p	昭和63年(1988)
ぶりでい子ども博物館 2	B5・123p	平成元年(1989)
ぶりでい子ども博物館 3	B5・134p	平成2年(1990)
ぶりでい子ども博物館 4	B5・118p	平成3年(1991)
ぶりでい子ども博物館 5	B5・116p	平成4年(1992)
ぶりでい子ども博物館 6	B5・174p	平成5年(1993)
ぶりでい子ども博物館 7	B5・158p	平成6年(1994)
ぶりでい子ども博物館 8	B5・117p	平成7年(1995)
ぶりでい子ども博物館 9	B5・101p	平成8年(1996)
ぶりでい子ども博物館 10	B5・127p	平成9年(1997)
ぶりでい子ども博物館 11	B5・86p	平成10年(1998)
ぶりでい子ども博物館 12	B5・100p	平成11年(1999)
ぶりでい子ども博物館 13	B5・112p	平成12年(2000)
ぶりでい子ども博物館 14	B5・96p	平成13年(2001)
ぶりでい子ども博物館 15	B5・98p	平成14年(2002)
ぶりでい子ども博物館 16	B5・98p	平成15年(2003)
ぶりでい子ども博物館 17	B5・102p	平成16年(2004)
ぶりでい子ども博物館 18	B5・104p	平成17年(2005)
ぶりでい子ども博物館 19	B5・106p	平成18年(2006)
ぶりでい子ども博物館 20	B5・83p	平成19年(2007)
ぶりでい子ども博物館 21	B5・44p	平成20年(2008)
ぶりでい子ども博物館 22	B5・55p	平成21年(2009)
ぶりでい子ども博物館 23	B5・95p	平成22年(2010)
ぶりでい子ども博物館 24	B5・94p	平成23年(2011)
ぶりでい子ども博物館 25	B5・82p	平成24年(2012)

⑧ その他の刊行物

書 名	版・ページ数	刊行年
屋部のウシヤキ	92p	平成元年(1989)
手の平かみしばい(1) 人のため我がため	12景	平成22年(2010)
手の平かみしばい(2) おばあのちえ	12景	平成22年(2010)
名護・やんばるの地質	A4・209p	平成23年(2011)



3. 名護博物館の活動

(4) 友の会活動

名護博物館友の会は、「名護博物館を拠点としてやんばるの自然、文化、歴史をしっかりと掘り起こして記録するだけでなくそれを護り育て、会員相互の教養と親睦を深め、地域文化の創造と向上にも関わる」ことを目的に、平成13年に結成された。

名護博物館友の会では、友の会主催の講演会、各種講座などを開催するほか、博物館の主催事業への支援を行ったりするなど、様々な活動を行っている。

名護博物館友の会では、次のような活動を行っている。

- ◎ 講演会、研修会及び各種講座の開催
- ◎ 会員相互の親睦に関する事業
- ◎ 博物館事業への協力
- ◎ その他必要な活動

年会費	年会費
普通会員（大人）	1,000円
普通会員（大学生以下）	500円
家族会員（5名まで）	2,000円
賛助会員（団体または個人）	3,000円以上

① これまでに実施した友の会事業

夏休み子ども絵画教室／親子で学ぶ絵画教室／野草を食べる会講座（「博物館とボランティア」、「ヤンバルの自然再発見」）／安和のウシデーク説明会・見学会／地域巡検（世富慶、久志、仲尾、東江、旧大兼久、屋部）／名護城の歴史と自然観察会／名護まちスーヅグワー散策／世富慶砥石を訪ねて／勝山シークワサーから学ぼう勝山自然研修旅行／歴史文化視察（北中城村、読谷村）／収蔵庫見学会／東村博物館見学／古酒（コース）を味わう／地質露頭観察会／南風原文化センター見学など

② 平成23年度の友の会活動

せせらぎ公園田植え、稲刈り体験講座（二期作）／夏休み子ども絵画教室／キビ刈り、黒糖作り体験講座／肝高（きむたか）阿麻和利の勝連城の見学／栄町の市民活動「屋台祭」の見学／与那城歴史民俗資料館の見学



3. 名護博物館の活動

(5) 博物館友の会との連携事業

美術館・歴史博物館活動基盤整備支援事業

みんなで学ぼう名護・やんばる講座-1

文化庁の公募「美術館・博物館活動基盤整備支援事業」で採択されたプロジェクトで、名護博物館と博物館友の会を中心に実行委員会を結成し、地域の博物館や公民館との連携を深めながら、身近な暮らしや文化を再発見するワークショップを平成21年度展開した。

地域情報の利活用を促進する試みとして、展示会開催やガイドブックの作成なども行った。

1. 瀬嵩を学ぼう!

地域歩きワークショップ 2009年8月15日(土曜)

展示報告会(名護博物館ギャラリー) 9月10~17日

大城幸男さんのガイドで名護市瀬嵩の瀬嵩御宮・根神殿内・東り屋敷・金丸殿内・黄金森・カンサなどを巡り、ウラシロガシ探索も実施



2. 宜野座を学ぼう!

地域歩きワークショップ 2009年9月12日(土曜)

展示報告会(宜野座村立博物館) 10月21~25日

宜野座村立博物館の田里一寿さんのガイドで、宜野座又古島遺跡・御嶽などを巡り、同館の山川須真子さんによる紙芝居も観賞



3. 東村を学ぼう!

地域歩きワークショップ 2009年11月1日(日曜)

展示報告会(東村立山と水の生活博物館) 11月25~29日

「東村立山と水の生活博物館」元職員の中村保さんの案内と、同館の比嘉鶴見さん・渡久山尚子さんの協力で、有銘・慶佐次・川田を巡る



4. 奥を学ぼう!

地域歩きワークショップ 2009年11月29日(日曜)

展示報告会(奥ヤンバルの里民具資料館) 12月9~13日

島田隆久さんの案内と「奥ヤンバルの里」スタッフの協力を得て、猪垣や奥集落を歩き、集落の歴史文化や暮らしを学ぶ



5. 古宇利島を学ぼう!

地域歩きワークショップ 2009年12月20日(日曜)

展示報告会(今帰仁村歴史文化センター) 2010年1月20~2月28日

今帰仁村歴史文化センターの仲原弘哲館長とスタッフ、小浜区長さんなどの協力を得て古宇利島を歩き、神行事や島のように学ぶ



3. 名護博物館の活動

美術館・歴史博物館活動基盤整備支援事業 みんなで学ぼう名護・やんばる講座-2

名護博物館と博物館友の会を中心に結成した実行委員会で、平成22年度展開した身近な暮らしや文化を再発見するワークショップ。名護市内の安部・我部・宇茂佐を巡り、各公民館と住民の方々の協力を得ながら地域資源の調査と、各家庭の写真を複写して公民館で展示する「地域アルバム展」を開催した。

1. 安部をあるく

地域調査 2010年9月7日（火曜）

事前学習のあと安部のムラウチや海岸を中心に歩き、地域調査を実施。

終了後に写真と記録カードを元に事後学習

地域アルバム展(安部公民館) 9月24～28日



2. 我部をあるく

地域調査 2010年10月25日（月曜）

字の中心となるヒラマチと、塩田があるメーガキと二手に分かれて歩き、我部公民館の地域調査を実施。終了後に写真と記録カードを元に事後学習

地域アルバム展(我部公民館) 11月18～24日



3. 宇茂佐をあるく

地域調査 2010年12月5日（月曜）

宇茂佐の字誌編集委員会員のメンバーと、宇茂佐海岸からウムサバル、ブーミチャから屋部川沿いに公民館まで歩いて地域調査を実施

終了後に学習会開催

地域アルバム展(宇茂佐公民館) 12月15～21日



4. 成果物と報告会

ガイドブックとDVD（安部・我部・宇茂佐）／ホームページ／地域アルバムデータベース等



3. 名護博物館の活動

平成23年度 文化遺産を活かした観光振興・地域活性化事業 みんなで創ろう!名護・やんばるミュージアム

1. 地域の資源紹介

ガイドマップの作成（博物館及び博物館周辺、源河区）

○博物館リーフレットの作成（2011年11月）

わかりやすい博物館リーフレットを作成し、市内外の観光施設、交通機関に配布。

○「東江を歩く」のパンフレット作製（2012年1月～3月）

東江区をとりあげ、その地域の自然・歴史・文化がわかる小冊子「東江を歩く」を作製

○「源河を歩く」のパンフレット作製（2011年12月～2012年3月）

集落の中の源河川、源河グスク、石敢當などをテーマとして、パンフレットを見ながら、源河集落を楽しく歩けるようにした。

2. 博物館ボランティアガイドの育成

2011年11月4日～11月27日

市民からボランティアガイドを募集する。そのガイドは、博物館だけでなく、名護市街地を市民自ら案内できるように、講師を招き、5回講座、3回のスキルアップ講座を開催し、まちなか案内人の育成を行った。

3. まちあるき案内板の設置

2011年11月～3月

博物館周辺の文化財等に案内板（写真）を設置し、昔の面影を現在の風景と対比させる手法をとった。

4. 名護・やんばるの紹介ビデオ（DVD）制作

2011年8月～2月

15分程度で、名護・やんばるの自然がわかるDVDを作製し、この地域の自然全体像を把握できるものとする。市内外の小・中学校にも配布した。

5. 故人山之端一博氏の展示会

2011年8月19日～9月4日

山之端一博氏は、人生の後半を家族とともに故郷の名護市に住居を構え、多くの絵画を制作した。この作品が遺族より名護博物館に収蔵されることとなった。また、氏は絵画制作を中心に名護・やんばるの市民文化活動を力づけた。

これを機会に一博先生の思想と作品に触れる展示会を開催した。

